

環境省エコインターンシップの概要

環境省総合環境政策局

環境保健部企画課 化学物質審査室

環境経済課 環境教育推進室

インターンシップ

「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」

大学・学生にとってのメリット

- アカデミックな教育研究と社会での実地の体験を結び付けることによる教育内容・方法の改善・充実。
- 学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識を育成。
- 企業等の現場において就業体験を積み、専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることにより、自主的に考え行動できる人材を育成。



企業・経済界にとってのメリット

- インターンシップの普及により、実社会への適応能力のより高い実践的な人材を育成。
- 大学等との連携により、新たな産業分野の動向を踏まえた産業界等のニーズを大学等に伝達、大学等の教育に反映。
- 大学等と企業等の接点が増えることにより、相互の情報の発進・受信を促進。企業等の実態について学生の理解を促す。

環境省エコインターンシッププログラム

大学生・大学院生を企業の環境管理部門にインターンシップ生として派遣し、企業における環境管理に関する業務体験

学生に、「環境のことを考えて働く」実践的な体験の機会を提供。

企業に、環境保全に取り組むについて情報発信し、フレッシュな意見を取り入れる機会を提供

次世代に向けた環境意識の高い人材を育成。
仕事・就職の観点から、持続可能な社会の構築に寄与。

実施主体：環境省
事務局：(社)環境情報科学センター

平成19年度エコインターンシップ スケジュール

7/25: 企業・大学・学生向け説明
会開催(東京・こどもの
城)

様々な学部・専攻か
ら23名が参加

7/25 ~ 8/17: 受入れ企業募集期間

7/25 ~ 8/24: 学生募集期間

8/31: 事前研修(マナー研修、企
業の環境管理に関する基
礎的な研修等)

住友化学(株)、(株)
村田製作所、旭硝子
(株)、
セイコーエプソン(株)
の4社が8名の学生を
受け入れ

9月上旬: 学生の配属先決定

10月 ~ 12月: インターンシップ実施

2/13: シンポジウム開催

3月: 追加実施

(株)東芝セミコンダクター社
が1名の学生を受け入れ

エコインターンシップ実績

住友化学

住友化学株式会社

- 実施期間:平成19年10 / 22 ~ 11 / 2 (2週間)
- 受け入れ部署:東京本社 レスポンシブルケア室、大阪工場 環境安全室
- 学生:浦井 泰奈(大学院 海洋科学技術研究科1年生)
広瀬 淳哉(大学院 経済学研究科1年生)
- 実施内容:大気汚染物質の拡散シミュレーションに関する業務など



エコインターンシップ実績



株式会社 村田製作所

- 実施期間:平成19年10 / 22 ~ 11 / 9 (3週間)
- 受け入れ部署 (2ヶ所):本社 環境管理部、製品安全推進部
- 学生:大久保 洋之(大学院 基礎工学研究科1年生)
菅原 有紀(法学部3年生)
- 実施内容:企業のCSRレポートの比較調査業務
製品に含有する化学物質のサプライチェーン管理
体制の構築に関する業務 など



エコインターンシップ実績



旭硝子株式会社

- 実施期間:平成19年11 / 5 ~ 11 / 16 (2週間)
- 受け入れ部署:本社 社会環境室、千葉工場 安全環境室
- 学生:北 聖吾(経済学部経済学科3年生)
山添 愛(大学院 教育学研究科1年生)
- 実施内容:フロンの回収・破壊プロセスに関する業務 など



エコインターンシップ実績



セイコーエプソン株式会社

- 実施期間:平成19年12 / 10 ~ 12 / 21(2週間)
- 受け入れ部署:本社 経営戦略室 信頼経営推進部(環境担当)
- 学生:木場 智弘(教育学部環境教育専攻3年生)
町田 龍亮(大学院 システム情報工学研究科1年生)
- 実施内容:製造工程における化学物質管理業務 など



平成20年度もエコインターンシップを実施します

- 平成19年度は、初年度の試みとして、化学物質対策をテーマとし、企業5社、学生9名の参加により実施。
- 平成20年度から、対象を拡大して本格実施。

企業・大学向け説明会：

3月14日(金) 13:30～(企業向け)、15:30～(大学向け)

於・こどもの城 研修室(東京都渋谷区)

連絡先：(社)環境情報科学センター

エコインターンシップ事務局(03-3265-4000)

詳しくはエコインターンシップのウェブサイトで

<http://www.env.go.jp/chemi/kagaku/ecointernship>

持続可能な社会に向けて必要な人材育成

持続可能な社会の実現には、一部の分野だけでなく、あらゆる分野（業界、職種等）で、企業活動等の経済社会システムのグリーン化に取り組む人材（環境人材）が不可欠

一方、企業等においても、温暖化対策、希少資源の枯渇、国際的な環境規制等の環境面でのリスクに対応するため企業活動をグリーン化できる環境人材が求められている

大学は、各人の幅広い教養及び専門性を習得させる場であり、卒業後の職業や仕事の方向性に大きな影響を与えるなど、環境人材育成の中心的機能を果たしうるもの。



環境省において、「アジア環境人材育成イニシアティブ」を実施

持続可能な社会づくりに取り組む人材育成に向けた動き

国際的な動き（国連 E S D の10年（2005～2014））

日本政府がヨハネスブルグサミットにおいて提案し、第57回国連総会で決定。

2006年「わが国における国連ESDの10年実施計画」を策定。

ESD：持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）

の略。持続可能な社会づくりに参画する個人を育むことを目指す。

「高等教育機関における取組」は同計画の初期段階の重点的取組事項

2つの閣議決定

国際的に持続可能な社会づくりに取り組む人材育成を重点分野に指定

21世紀環境立国戦略「アジアの環境リーダー育成イニシアティブの展開」

イノベーション25「世界の環境リーダー育成」

平成19年5月に関係省庁連絡会議を立ち上げ、具体化に向けた検討を開始

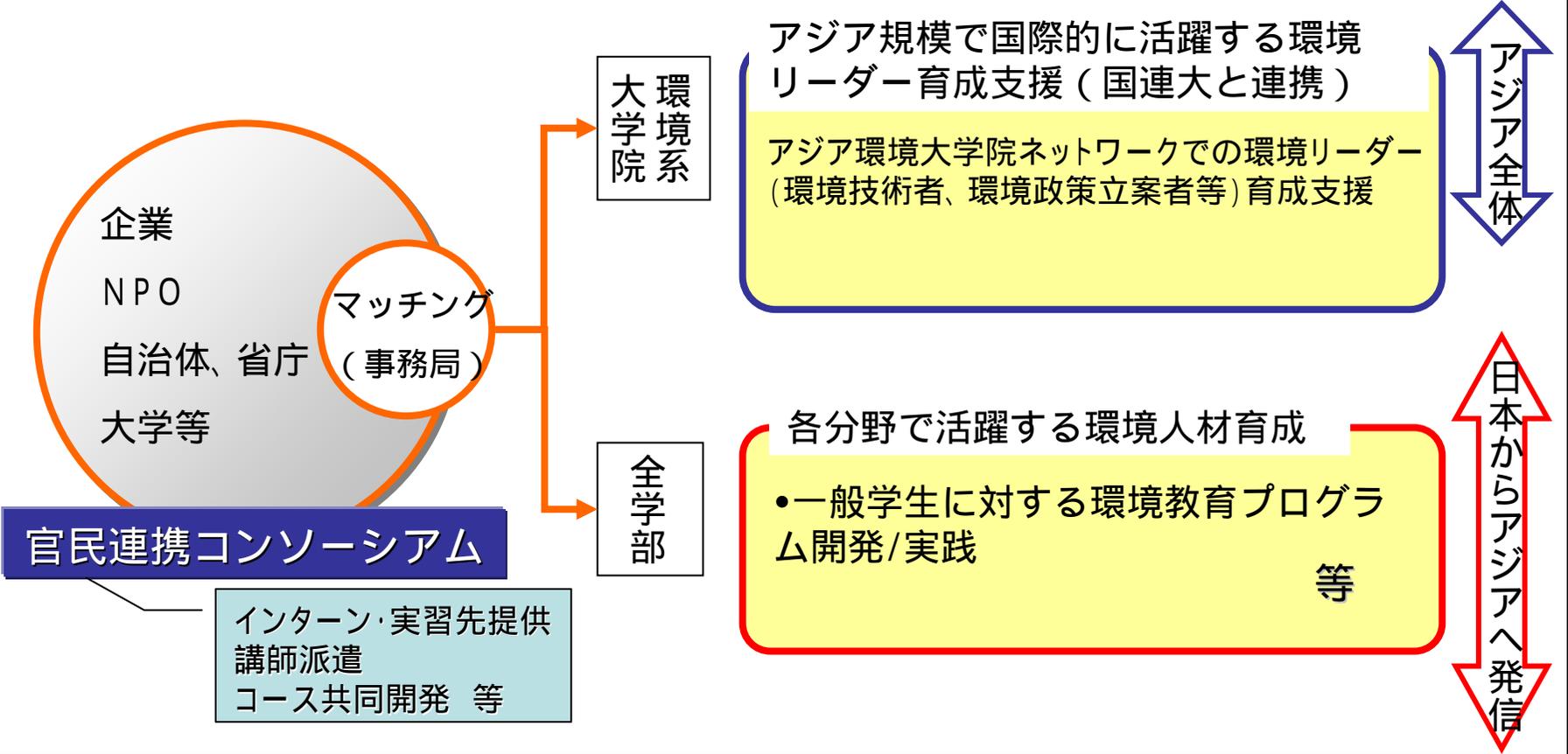
平成20年夏に政府の環境リーダー育成プログラムを策定予定

アジア環境人材育成イニシアティブ展開のイメージ

「持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン」策定
(H19)
9月中間取りまとめ、年度内最終とりまとめを公表
基礎調査、制度設計、試行事業を実施

策定したビジョンを踏まえ、関係省庁 ・ 国際機関等と連携して事業を展開

インターンシップ等を活用した実践的な環境人材育成 (H20~)



アジア環境人材育成ビジョンの目指すもの

持続可能なアジアに向けて重点的に育成すべき環境人材像の明確化

- 超長期ビジョンや美しい星・クールアース50等で求められる社会像
- 求められる環境人材像

大学における環境人材育成の現状と、目指すべき人材育成の仕組み・現状の社会の受入状況

現状の課題を解決し、環境人材の育成を促す施策や仕組みの検討

- 企業・NPO等の社会的ニーズの掘り起こし
- 産学官連携の環境人材育成コンソーシアムの立ち上げ及びコンソーシアムを通じたプログラム共同開発、講師派遣、環境人材の資格検討、環境人材受け入れ先の創出等
- アジアの大学間連携体制の構築 等

環境人材育成の仕組みづくりに向けた政府の支援施策（以下の項目を中心に）

- アジアの大学連携を通じた環境リーダーの育成イニシアティブ
- 各専門分野に対応した環境人材育成イニシアティブ
- 環境人材の社会への受け入れを促す仕組みづくり 等

環境人材育成シンポジウムにて発表予定

（3月24日（月）14時～18時 於 庭園美術館）

シンポジウム第2部・第3部の構成

14:00～14:50 第2部:平成19年度エコインターンシッププログラム活動報告

– 参加学生、受け入れ企業担当者からの報告

14:50～15:00 休憩

15:00～15:55 第3部:パネルディスカッション

– 「環境に配慮した社会に向けた『仕事』のあり方」

– パネリスト:鴨下一郎 環境大臣

塩崎保美 住友化学株式会社理事

ピーター・D・ピーダーセン

(株)イースクエア代表取締役社長

村尾信尚 関西学院大学教授

– コーディネーター:草野満代 キャスター

15:55～16:00 閉会挨拶

(敬称略)